

【家庭分野の目標】

衣食住に関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

【評価の観点・方法】

<評価の観点>

「生活や技術への関心・意欲・態度」、「生活を工夫し創造する能力」、「生活の技術」、「生活の知識・理解」の4つの観点で評価します。

<評価の方法>

①「生活や技術への関心・意欲・態度」

積極的に取り組む意欲や態度を重視して評価します。主に、作業や実習、毎時間の学習への取組状況、作品の提出状況、学習プリントなどを評価します。

②「生活を工夫し創造する能力」

習得した知識や技術を積極的に活用し、生活を工夫したり創造したりする能力を評価します。主に、既習事項の活用状況や実際の生活の場で工夫したり、創造したりする状況などにより多面的に評価します。

③「生活の技術」

実際の生活の場面で必要とされる基礎的な技術が身に付いたかどうかを評価します。主に、学習過程における技能の習熟状況、調理の基礎技術テスト、完成した料理などを多面的に評価します。

④「生活の知識・理解」

実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的な知識を身に付けているか、また、生活と技術とのかわりについて理解しているかどうかを評価します。主に、学習プリントの記入状況、テストなどを評価します。

以上の4つの観点で、十分満足できると判断したものは **A**、おおむね満足できると判断したものは **B**、努力が必要なものを **C** と評価し、総合的に判断をして、5段階の評定をつけます。

時間	学習内容	学習のねらい
35 時 間	食生活と自立 ○健康と食生活 ・食事について考える ・生活のリズムと食事 ・栄養素のはたらきと食品 ・中学生に必要な栄養 ・食品群の分類 ・食事の計画 ○食品の選択と保存 ・食品の選び方 ・食品の表示と保存 ・調理の計画 ・包丁を上手に使おう ・肉、魚、野菜を調理しよう ・食生活の改善	・食事が果たす役割や健康と食事とのかかわりについて考え、自分の食生活を工夫できる。 ・栄養素について正しい知識を身につける。 ・食品の表示やマークの意味を理解し、食品を適切に選択することができる。 ・食材の調理上の性質を理解し、安全に調理する技能を身につける。 ・食生活をよりよくするための工夫が考えられる。
	○地域の食材とその調理 ・地域の食材と食文化 ・行事食や郷土料理	・日本の伝統料理や行事食について調べ、家庭で調理を実践することができる。
	身近な消費生活と環境 ○家庭生活と消費 ・生活に必要なものの流れ ○商品の選択と購入 ・商品購入のプロセス ・販売方法と支払い方法 ・消費生活のトラブルを防ぐ ・消費者の権利と責任 ・消費者を支えるしくみ ○環境に配慮した生活 ・環境への影響を考えた消費生活	・さまざまな情報の中から、信頼できる情報を見極め、かしこい消費者について考える。 ・契約の意味や、契約の解除についてなどの正しい知識を身につける。 ・環境に配慮した商品を選択することができる。